



AT-TQ2450 リリースノート

この度は、AT-TQ2450 をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。
このリリースノートは、マニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 2.0.8

2 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン **2.0.6** から **2.0.8** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 無線クライアントのブリアンブル長を Long 固定に設定していた場合、2.4GHz 無線インターフェースの VAP1 ~ 15 への接続ができませんでした。これを修正しました。
- 2.2 無線 1 を動的に「オフ」に設定した後、アクセスポイントの ETH ポートのリンクダウン/リンクアップが発生した場合、本体宛通信ができなくなり、GUI 画面が開けなくなりましたが、これを修正しました。

3 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン **2.0.8** には、以下の制限事項があります。

3.1 イーサネット設定

[「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「イーサネット設定」](#)

フロー制御が有効でも 10M Full でリンクアップすると、Pause フレームを正常に処理できないことがあります。

3.2 VAP

[「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VAP」](#)

- ダイナミック VLAN (WPA エンタープライズ) 環境で、無線クライアントの検疫を実行するように RADIUS サーバーが設定されている場合、無線クライアントに VLAN 間ローミングが発生すると、無線クライアントの認証に失敗することがあります。
- VAP 設定画面で「ブロードキャストキー更新間隔」だけを「0」から他の値に設定変更した場合は、設定が反映されません。当該手順で設定を行う場合は、設定変更後に再起動してください。

3.3 WDS

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「WDS」](#)

WDSにおいて、4台以上の多段接続は未サポートとなります。

3.4 MAC フィルタリング

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「MAC フィルタリング」](#)

MAC フィルタリング機能の「リスト上の全てのステーションをブロックする」フィルターと WDS の併用はできません。併用すると WDS のリンクが切断されてしまいます。WDS と MAC フィルタリングを併用する場合は、「リスト上のステーションのみを許可する」を選択し、無線クライアントのリストに対向 AP の MAC アドレスを追加してください。

3.5 送信 / 受信

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「送信 / 受信」](#)

- 「送信 / 受信」画面の wlan0wds0 ~ 3 の「ステータス」が正しく表示されません。
- 無線クライアントが接続していない場合でも、「送信 / 受信」の無線インターフェースの送信カウンターが増加しますが、表示上の問題であり実際はパケットを送信していません。

3.6 SNMP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)

MAC フィルタリング機能により接続を拒否したときに送出される SNMP トラップの atkWiAcClient80211Spec の値が、正しく表示されません。

3.7 V.1.2.0 からのアップグレード

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

- 「アップグレード」画面の「切り替え」ボタンを使用して、V.1.2.0 以前のファームウェアから V.2.0.1 以降のファームウェアへの切り替え（アップグレード）を行うと、次の項目が無効となります。切り替え後にこれらの項目を設定してください。詳細は、リファレンスマニュアルのそれぞれの項目を参照してください。
 - ・「詳細設定」 / 「無線」画面の「MCS（データレート）設定」
 - ・「詳細設定」 / 「Managed AP」画面の「WDS 運用モード」「WDS 運用時のイーサネットポート」
- クラスター機能を使用するように設定された V.1.2.0 以前のファームウェアを持つ本製品をそのまま V.2.0.1 以降のファームウェアにアップグレードすると次の項目が無効となります。
 - (a) 「詳細設定」 / 「無線」画面の「MCS（データレート）設定」
 - (b) 「詳細設定」 / 「Managed AP」画面の「WDS 運用モード」「WDS 運用時のイーサネットポート」クラスター機能を使用するように設定された V.1.2.0 以前のファームウェアからのアップグレードは、次の手順で行ってください。
 - (1) アップグレードを行う本製品の「クラスター」 / 「アクセスポイント」画面の「クラスターの停止」ボタンをクリックします。
 - (2) 「保守管理」 / 「アップグレード」画面でアップグレードを実行します。(a) (b) の

項目は、アップグレードしたファームウェアにおけるデフォルトが設定されます。
(3) クラスタを構成するすべての本製品に対して (1) (2) を繰り返します。
(4) クラスタを構成するすべての本製品の「クラスタ」 / 「アクセスポイント」画面の「クラスタの開始」ボタンをクリックします。
なお、上記の手順の実行後に (a) (b) の項目が無効となってしまった場合は、クラスタを再構成した後に (a) (b) の項目の設定をお願いいたします。詳細は、リファレンスマニュアルのそれぞれの項目を参照してください。

4 ファームウェアのアップグレードにおけるご注意

重要：アップグレード中は、本製品の無線機能が停止します。アップグレードは、必ず有線 LAN ポートに接続したコンピューターから実行してください。
また、アップグレード中は、本製品の Web 設定画面へのアクセスや、有線 LAN ポートへのトラフィック流入をできるだけ避けてください。

4.1 V.1.0.0 → V.1.1.6 以降へのアップグレード

 **参照** 「リファレンスマニュアル」 / 「保守管理」 / 「アップグレード」

ファームウェア V.1.0.0 から V.1.1.6 以降へのアップグレードは、まず V.1.0.0 から V.1.1.5 にアップグレードし、引き続き V.1.1.5 から V.1.1.6 以降にアップグレードしてください。

直接、ファームウェア V.1.0.0 から V.1.1.6 以降へのアップグレードを行わないでください。これを行うと、ファームウェアが正常に更新されません。これを行ってしまった場合は、この状態から V.1.1.5 にアップグレードし、その後 V.1.1.6 以降にアップグレードしてください。

ファームウェアは、弊社ホームページからダウンロードしてください。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>

4.2 V.1.1.0 ~ 1.2.0 → V.2.0.8 へのアップグレード

 **参照** 「リファレンスマニュアル」 / 「保守管理」 / 「アップグレード」

アップグレード前の通信モードが IEEE 802.11n を含む場合、VAP のセキュリティ設定が「スタティック WEP」や「IEEE802.1X」に設定されていると、V.2.0.8 へのアップグレードによって VAP のセキュリティ設定が「無し」に変更されます。

アップグレード前に、セキュリティ設定を「WPA パーソナル」や「WPA エンタープライズ」に変更し、それに合わせて無線クライアントのセキュリティ設定も変更してください。「スタティック WEP」「IEEE802.1X」には脆弱性があります。強力なセキュリティの「WPA パーソナル」「WPA エンタープライズ」の使用をおすすめいたします。アップグレード後に、セキュリティ設定を「WPA パーソナル」「WPA エンタープライズ」に変更することもできますが、一時的にセキュリティ設定が「無し」となるためおすすめいたしません。

アップグレード後も「スタティック WEP」や「IEEE802.1X」をご使用になりたい場合は、アップグレード前に IEEE 802.11n を含まない通信モードに変更してください。

4.3 V.2.0.8 から V.1.1.5 へのダウングレード

 **参照** 「リファレンスマニュアル」 / 「保守管理」 / 「アップグレード」
「リファレンスマニュアル」 / 「オプション設定」 / 「NTP」

ネットワークタイムプロトコル (NTP) を使用しており「タイムゾーン」が「Japan」に設定されているとき、V.2.0.8 (V.1.2.0) から V.1.1.5 にダウングレードすると、NTP で取得した時刻に 9 時間が加算された時刻が表示されます。

この事象の回避は、ダウングレードした V.1.1.5 で NTP 画面の「タイムゾーン」を「(GMT+09:00) Tokyo, Osaka, Sapporo, Yakutsk」から「(GMT) Greenwich Mean Time: Lisbon, London」に変更してください。

ダウングレードした V.1.1.5 から再び V.2.0.8 にアップグレードする場合は、アップグレードする前に V.1.1.5 で「タイムゾーン」が「(GMT) Greenwich Mean Time: Lisbon, London」であることを確認した上で行ってください。「切り替え」ボタンでファームウェアのバージョンを切り替える場合も同様です。

また、ダウングレードした V.1.1.5 → V.1.2.0 → V.2.0.8 の順にアップグレードする場合は次の手順を実行してください。

(1) V.1.1.5 で「タイムゾーン」を「(GMT+09:00) Tokyo, Osaka, Sapporo, Yakutsk」に変更してから、V.1.2.0 にアップグレードしてください。

(2) V.1.2.0 から V.2.0.8 にアップグレードして、V.2.0.8 で設定を初期化し本製品の再設定を行ってください。

5 リファレンスマニュアルについて

最新のリファレンスマニュアル (613-001462 Rev.E) は弊社ホームページに掲載されています。本リリースノートは、上記のリファレンスマニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのリファレンスマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>